

審議会主催父母説明会を終えて

この週末は三連休だったにもかかわらず延べにして130名を超える多くの方が審議会主催の父母説明会に参加されたそうです。お疲れ様でした。今回の説明会は、今までの審議会主催の説明会の中でもっとも準備が行き届いたもので、財務の説明もわかりやすいものでした。また PTA の側からも経理にお詳しいタスクフォース委員が審議会の財務担当理事と細かいやりとりを繰り返され、PTA としての見解を補強する計算を見事に導いてくださいました。この財務についての現段階での見解の相違は同時にお配りしている PTA 資料をご覧くださいと共に、今後の歩み寄りを期待したいと思います。

PTA として残念であったのは、今回も審議会が、売却リースバック以外の他のオプションを考える余地はない、という姿勢を崩されなかった点です。坂本会長は PTA が(売却先、金額などを含む)firm な代替案を持ってくれば考えてもよいとおっしゃいましたが、現状のようにすでに売却が既定事実のように世間に知られている状況では、せつかく頂いている一部リースの話なども具体的に細部を詰めることはできないでいます。つまり現実問題として、審議会案を凍結して貰わない限り、他の案を具体化して審議会と PTA がより広範なオプションの中で協力して、GJS とそこで学ぶ子供たちの将来を考えていくことは不可能であるというのが、私たちの認識です。

ご説明の中で坂本会長は、PTA は審議会に比べて財政問題に対する認識が甘い、と苦言を呈されました。しかし、あるお父様が指摘されたように、審議会こそ 8 年後の移転時のリスクを過小評価されているのではないのでしょうか。実際、今回の用意周到な説明会でも、(運良く移転先が見つかったとして)移転後の財政がどのようになるかという青写真は、相変わらず示されませんでした。こうした大きなリスクを回避するために、売却ではなく、相手校の WFHA に逆にリースするというのも考えられないのでしょうか？私たちは店子としての共用には不安を覚えても、こちらの主張をきちんと通せる大家としての共用であれば受け入れられるのではないのでしょうか？まして 8 年後に学校を失う危険がないというのであれば、なおさらです。なぜ、単純なリースではなく、貴重なキャンパスを手放してからリースバックという複雑な手法を選ぶのでしょうか？こうした疑問をよりよい代替案へ発展させる場を私たちは欲しいのです。もちろん議論の結果、やはり売却リースバックがベストということになれば、それでもよいでしょう。大事なことは PTA と審議会がそうした作業を通じて信頼関係を深め、ひいては子供たちのよりよい学習環境を実現することではないのでしょうか？

ここで先日の PTA 臨時総会でもお約束したように、審議会側からの説明が完了したこの段階で、もう一度 PTA 全体の意志を確認したいと思います。お手数ですが審議会案凍結に賛成または反対のどちらか一方をお選び頂き、下記の用紙をお手持ちの封筒に入れて学級担任へご提出ください。期限は9月9日(金)(修学旅行中の6年生は12日)と致します。判断がつかねる方はどちらにも丸をつけずご提出下さい。

また投票とは別に、みなさまのご意見を mycomment@SaveOurJapaneseSchool.org まで学年お名前を明記して E メールでお寄せ下さい。頂いたご意見は匿名化した後、来週、投票結果と共にホームページで公開し、審議会の皆様に伝えたいと思います。なお投票用紙番号と Eメールの記名は不正防止のためで、それ以外の用途には一切使いません。ご理解の上よろしくご協力お願いいたします。

切り取り線

ニューヨーク日本人学校 PTA

(投票用紙番号：SAMPLE)

2005年9月 日

審議会案(売却リースバック案)を一旦凍結し、代替案を含めて PTA と審議会が共同で解決方法

を検討することに **賛成する** ・ **反対する**。

お子様の学年クラス ()